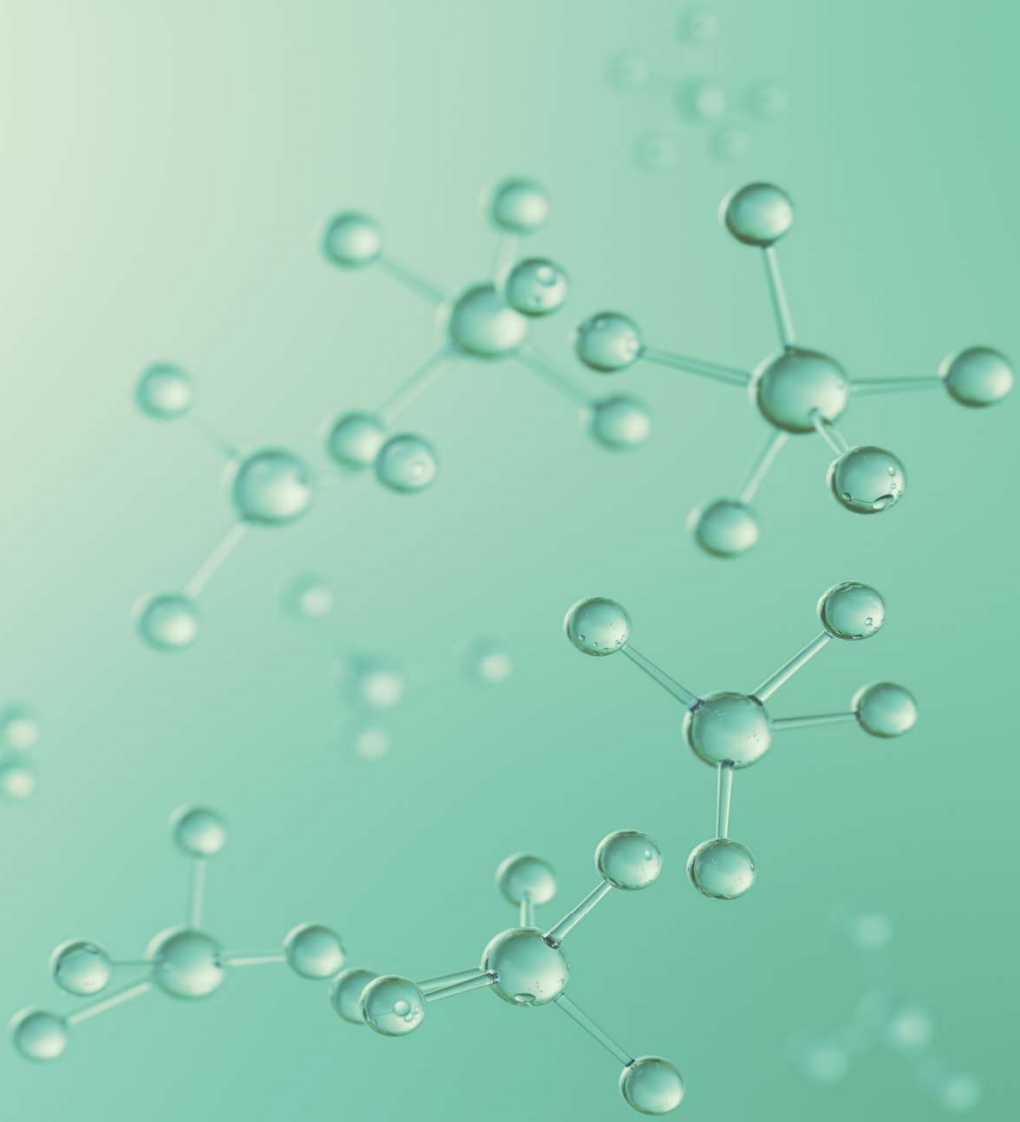
証券コード：7932

株式会社ニッピ

2027年3月期第2四半期（中間期）
決算説明資料

2026年11月10日



INDEX

1 2027年3月期第2四半期 決算概要

2 2027年3月期 業績予想

3 APPENDIX

1 2027年3月期第2四半期 決算概要

2027年3月期第2四半期 決算概要（連結）

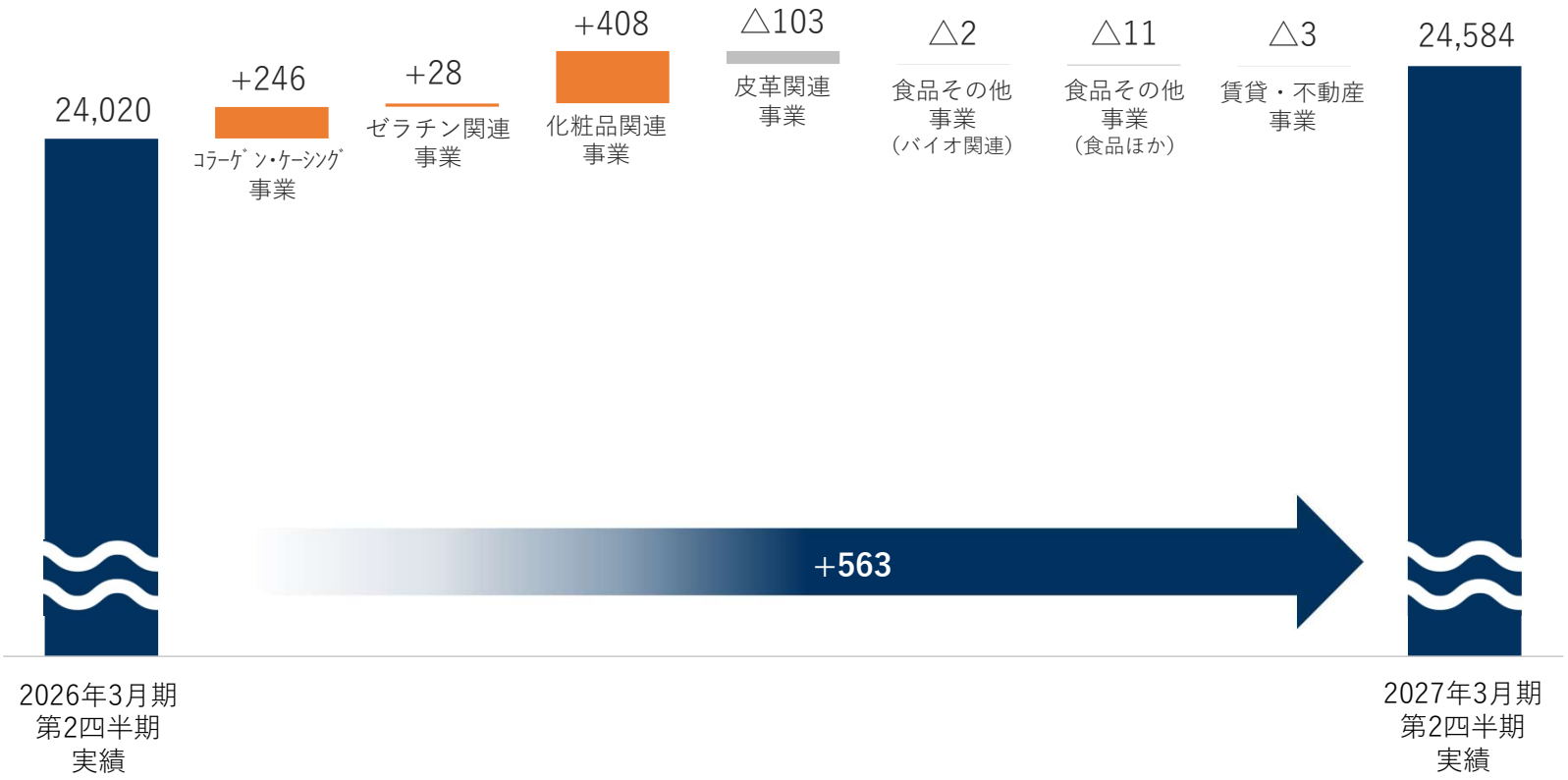
前年同期比増収減益、計画比減収増益で着地
健康食品等の売上が堅調に推移し増収するも、コスト上昇が響き利益は微減

単位：百万円	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q当初予想	2027年3月期 2Q実績 ※	前年同期比 （27.3期2Q実績/26.3期2Q実績）
売上高	24,020	25,000	**24,584**	+2.3%
営業利益	2,056	1,800	**2,010**	△2.3%
営業利益率	8.6%	7.2%	**8.2%**	△0.4P
経常利益	2,146	1,800	**1,985**	△7.5%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,351	1,200	**1,338**	△1.0%

連結売上高 増減要因分析

コラーゲンケーシングの輸出増加や、化粧品関連事業における健康食品の堅調な推移に支えられ増収

（百万円）



化粧品関連事業	+408

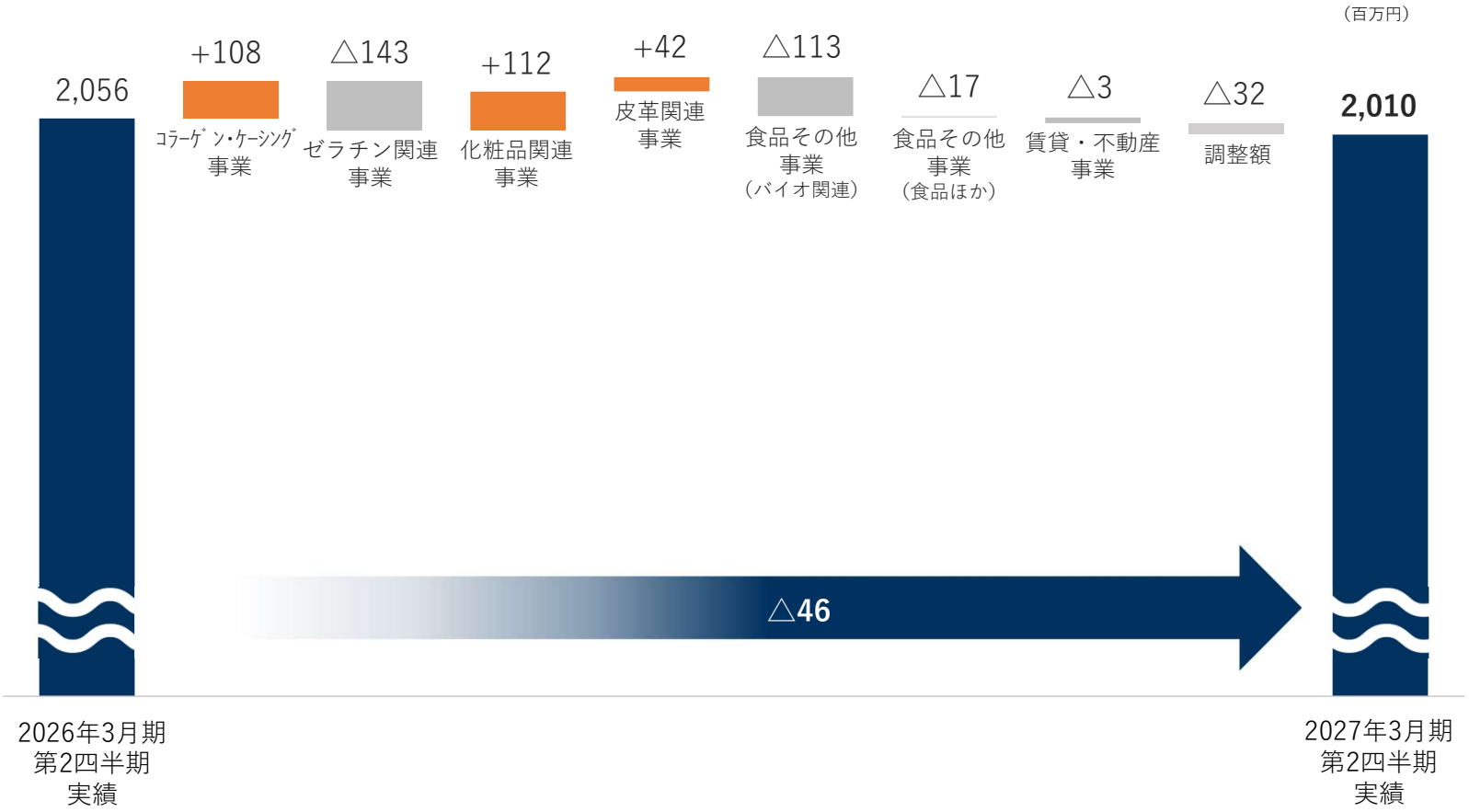
- ニッピコラーゲン１００の顧客化が進み好調に推移し増収

皮革関連事業	△103

- アパレル用途が引き続き好調なものの紳士・婦人靴向けの販売で苦戦

連結営業利益 増減要因分析

化粧品関連事業好調も、ゼラチン関連事業にてコスト上昇が響き減益



コラーゲン・ケーシング 事業	+108

- 北米向け輸出が好調に推移
- 輸出為替の影響により増益

ゼラチン関連事業	△143

- 原料価格およびユーティリティコストの上昇
- 輸入為替の影響により減益

セグメント別業績（連結）

化粧品・ケーシングが増収も、ゼラチン原料価格の上昇等もあり減益

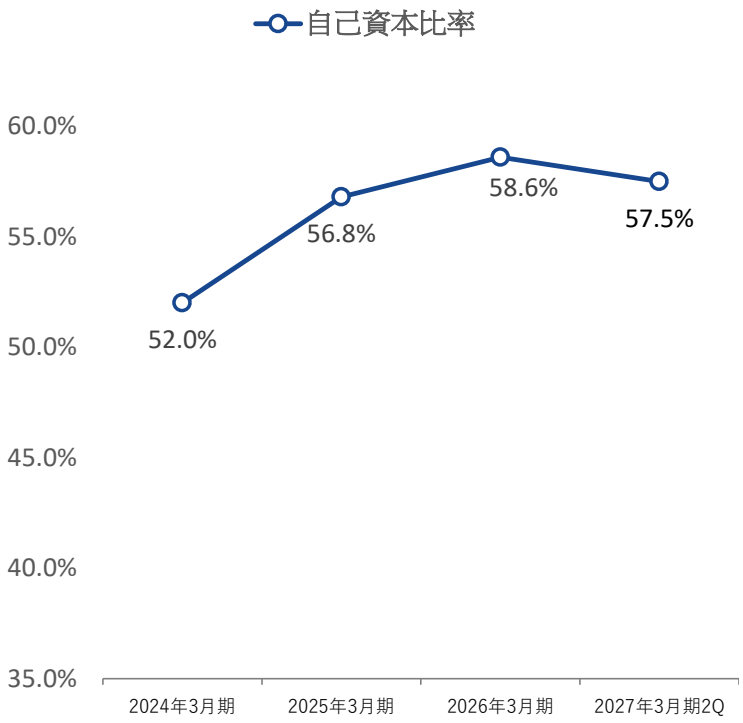
単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2026年3月期 2Q実績	**2027年3月期 2Q実績**	前期同期比		2026年3月期 2Q実績	**2027年3月期 2Q実績**	前期同期比	
			金額	比率			金額	比率
コラーゲン・ケーシング事業	4,668	**4,915**	+246	+5.3%	330	**438**	+108	+32.8%
ゼラチン関連事業	6,142	**6,171**	+28	+0.5%	1,168	**1,025**	△143	△12.3%
化粧品関連事業	4,021	**4,429**	+408	+10.1%	582	**694**	+112	+19.3%
皮革関連事業	3,057	**2,953**	△103	△3.4%	81	**124**	+42	+52.4%
食品その他事業（バイオ関連）	574	**572**	△2	△0.4%	113	**0**	△113	△100%
食品その他事業（食品ほか）	5,025	**5,013**	△11	△0.2%	264	**247**	△17	△6.5%
賃貸・不動産事業	530	**527**	△3	△0.6%	414	**411**	△3	△0.9%
調整額	－	**－**	－	－	△898	**△931**	△32	－
合計	24,020	**24,584**	+563	+2.3%	2,056	**2,010**	**△46**	△2.3%

連結貸借対照表

連結配当性向70%の実施による自己資本のコントロールを行う
剰余金の配当により純資産が減少し自己資本比率が微減

単位：百万円	26年3月期 期末	**27年3月期 2Q**	増減額
流動資産	27,246	**28,192**	+945
現預金残高	8,754	**8,072**	△682
固定資産他	42,879	**42,872**	△6
資産合計	70,126	**71,064**	+938
流動負債	12,968	**13,510**	+541
固定負債	15,228	**15,856**	+628
純資産	41,929	**41,697**	△231
負債・純資産合計	70,126	**71,064**	+938
自己資本比率※	58.6	**57.5%**	△1.1p

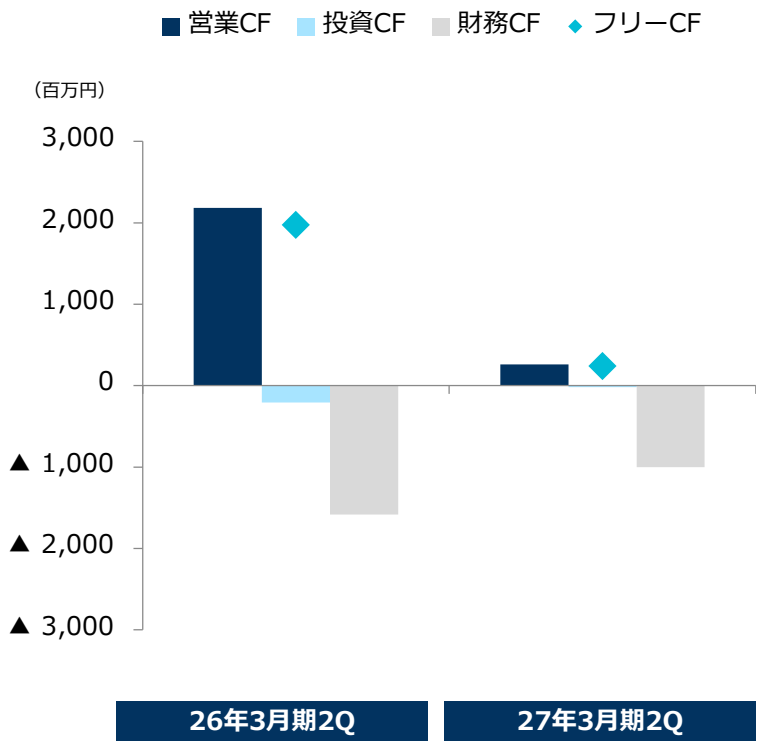


※ 自己資本比率＝自己資本/総資産×100／自己資本＝純資産－新株予約権－被支配株主持分

キャッシュ・フローの状況（連結）

営業ＣＦ・フリーＣＦは決済方法の変更による売上債権の増加により減少
財務ＣＦは有利子負債の調達により増加

単位：百万円	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	2,184	**262**	△1,922
投資活動による キャッシュ・フロー	△205	**△19**	+185
フリー・キャッシュ・フロー	1,979	**242**	△1,737
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,583	**△1,000**	+582
現金及び現金同等物の 増減額	+327	**△682**	△1,010
現金及び現金同等物の 期末残高	9,088	**7,899**	△1,189



2 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 連結業績予想

上期計画に対し実績はおおよそ順調に推移
業績予想の修正は行わず引き続き通期予想数値達成を目指す

単位：百万円	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前年同期比 （27.3期予想/26.3期実績）
売上高	47,252	**50,000**	+5.8%
営業利益	4,153	**4,100**	△1.3%
営業利益率	8.7%	**8.2%**	△0.5P
経常利益	4,206	**4,100**	△2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,832	**2,800**	△1.1%
一株当たり当期純利益（円）	993.45	**1,000.02**	+0.6%
ROE	7.0%	–	–
ROIC	5.6%	–	–

3 APPENDIX

社長メッセージ



自然の創造物を人々のくらしへ

1907年の創業来、当社は「良いもの」をつくることにこだわってまいりました。
品質第一を信念に、お客さまの要望にお応えする製品を提供すること、
これが、創業以来変わらない当社の経営方針です。
当社は、事業の要となるコラーゲンにいち早く着目し、
その研究を続けてまいりました。
コラーゲン業界の先駆企業としての自負をもちながら、
今なお新たな分野に挑戦し続けています。
今後さらに50年、100年の歴史をつくるためにも、
「つぎの良いものを創ること」に取り組んでまいります。

代表取締役社長　伊藤裕子

2004年9月	当社入社
2014年10月	大倉フーズ株式会社取締役
2015年7月	当社執行役員
2017年6月	株式会社ニッピコラーゲン化粧品取締役
2019年6月	同社常務取締役
2019年7月	当社経営企画室プロジェクトリーダー
2021年6月	当社取締役、経営企画室長、 化粧品・健康食品事業部・関係会社、知財担当
2021年6月	株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長
2023年4月	当社代表取締役社長（現）
2023年6月	一般財団法人日本皮革研究所理事長（現）

会社概要

商号	株式会社ニッピ（Nippi, Incorporated）
本社所在地	〒120-8601　東京都足立区千住緑町1-1-1
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp/
設立	1907年（明治40年）4月1日
資本金	4,404百万円
証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7932）
従業員数	481名（2026年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長　伊藤　裕子
事業所	生産拠点：　テクノセンター（東京都） 富士工場（静岡県） 富士宮工場（静岡県） 芝川工場（静岡県） 研究所：　バイオマトリックス研究所（茨城県）

事業内容	コラーゲン・ケーシング事業 ゼラチン関連事業 化粧品関連事業 皮革関連事業 賃貸・不動産事業 食品その他事業
主な子会社	株式会社ニッピコラーゲン化粧品 株式会社ニッピ・フジタ 大鳳商事株式会社 大倉フーズ株式会社 NIPPI COLLAGEN NA INC. 日皮（上海）貿易有限公司 日皮胶原蛋白（唐山）有限公司 ニッピ都市開発株式会社 株式会社ボーグ
関連会社	株式会社マトリクソーム
関係団体	一般財団法人日本皮革研究所

本社ビル　テクノセンター　富士工場　富士宮工場　芝川工場　バイオマトリックス研究所



当社のDNAとありたい姿

当社のDNA

「生み、育み、支える」

ものづくりへのこだわり

- 高品質
- ユニーク
- 先取り

ありたい姿

タンパク質研究の
エキスパートとして
人々の生活の質の
向上に貢献する

食・健康・医療関連分野におけるニッチトップを目指し
ユニークな製品・サービスを提供



事業創出の歴史

皮革事業の会社として創業し、社会の変化に合わせて新規事業を創出してまいりました

1907 日本皮革株式会社（現当社）創業



1932 ゼラチン事業へ進出



1952 コラーゲン研究の推進

1960 コラーゲン可溶化の成功



1962 コラーゲン・ケーシング事業へ進出



1974 株式会社ニッピへ商号変更



1975 コラーゲンペプチドの開発



1976 耐熱・耐焼性難質塩化ビニルの開発



1984 コラーゲン化粧品事業へ進出



1997 医療用高純度ゼラチンの開発



2003 試料破砕器具の開発



2011 再生医療分野へ進出



2021 3D培養基材の開発



2024 “世界初”ラミニン配合化粧品発売



- 皮革事業
- ゼラチン事業
- コラーゲン・ケーシング事業
- 化粧品・健康食品事業
- 研究所設立
- バイオマトリックス研究所に改称
- バイオ関連事業
- 賃貸・不動産事業

主な製品

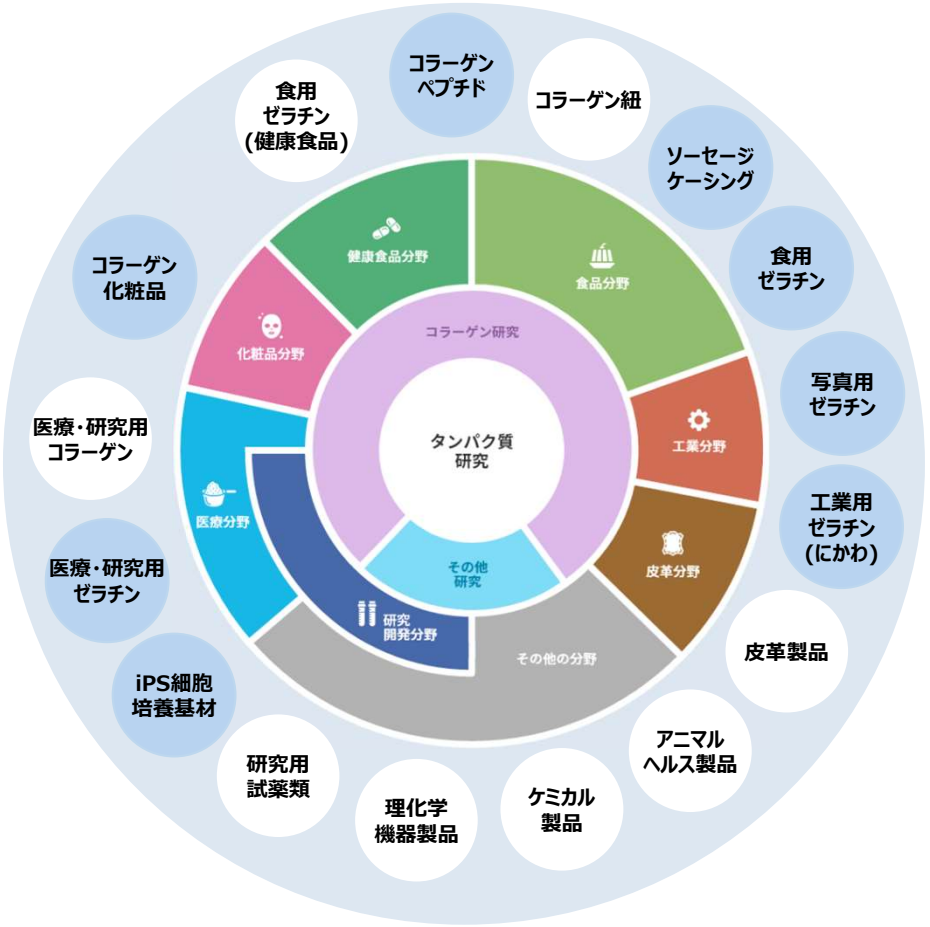
タンパク質研究を根幹に、幅広い製品を製造・販売しております

コラーゲン化粧品
コラーゲンを配合したスキンケア製品。コラーゲンは肌、骨、関節、髪などに含まれるタンパク質で、特に肌のうるおいや弾力、ハリを保つ役割がある。




iPS細胞培養基材
iPS細胞を培養するための足場材。細胞の増殖や分化に影響を与えるため、iPS細胞の研究や再生医療において非常に重要である。当社ではタンパク質の一種であるラミニンの組換え体を製造し提供している。





コラーゲンペプチド
コラーゲンを酵素や熱などで小さく分解し、断片（ペプチド）にしたもの。水に溶け、腸から吸収されやすいため、体内利用される。

ニッピペプタイド®
Collagenomics®



コラーゲンケーシング
コラーゲンが主原料であるソーセージなどの皮。牛皮のコラーゲン線維を円筒フィルム上に成形・乾燥して作られる。可食性で、食肉加工で広く使用される。

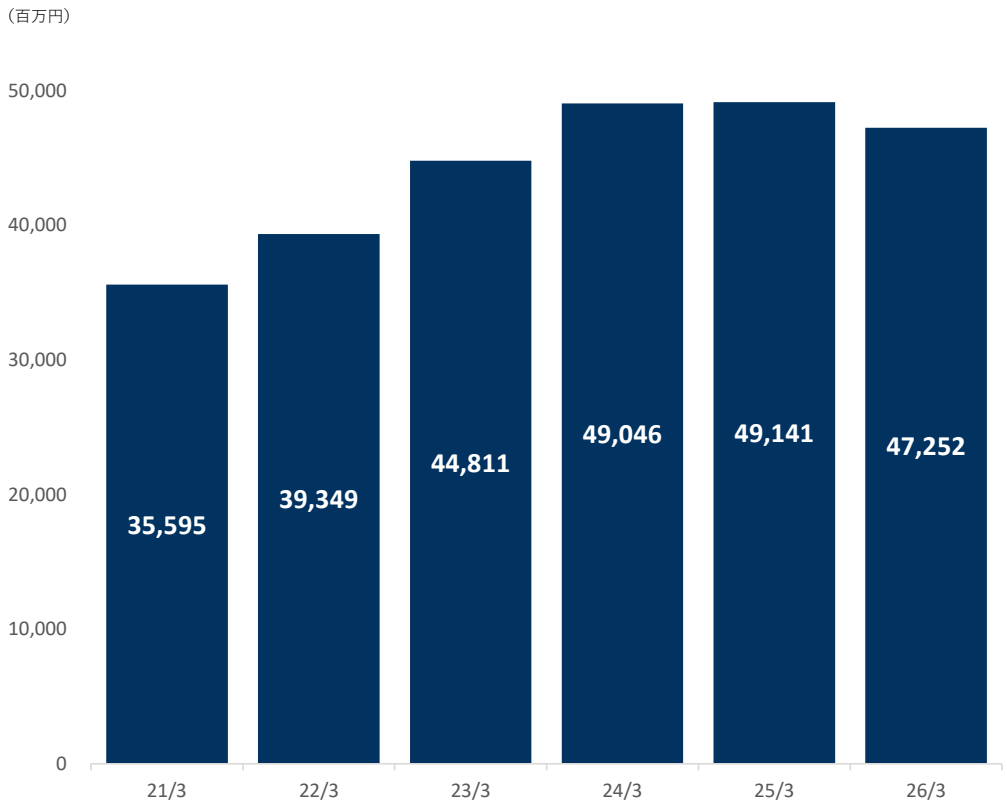



ゼラチン
コラーゲンの三重らせん構造が熱で解けて、水に溶ける構造に変わったもの。無色無味でゼリーやグミなどのお菓子、レンジアップ麺やチルド弁当などの食品のほか、医療用途、工業用途、写真などにも使われる。

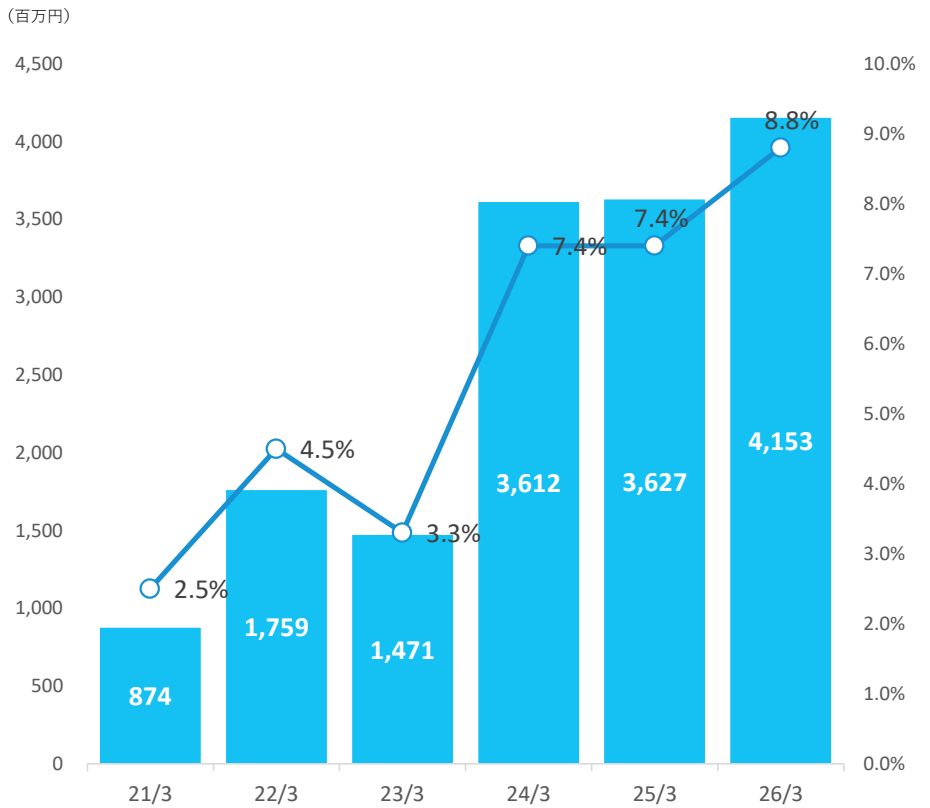


業績推移

売上高



営業利益 / 営業利益率



事業紹介

ゼラチン関連事業

生産拠点　富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンを分解、精製して製造したゼラチンおよびコラーゲンペプチドを取り扱う。
ゼラチンは、古くから私たちの暮らしの中で活用されており、ゼリーやグミキャンディ、カプセル、コンビニエンスストアのレンジアップ商品等に使用されている。
コラーゲンペプチドは、低分子で体内に吸収されやすく、さまざまな機能性が明らかになっている素材。健康や美容への効果が期待でき、水に溶けやすいことから、健康食品の飲料や粉末商品、錠剤などさまざまな用途で使用されている。
最新設備を導入したコラーゲンペプチド製造専用施設CQT棟では、長年培った製造技術と最新の研究を活かした「Collagenomics」関連製品等を製造し、市場やお客様のニーズに対応した製品の提供に取り組んでいる。



※ニッピペプタイド、Collagenomicsは、ニッピの登録商標です

コラーゲン・ケーシング事業

生産拠点　富士宮工場、芝川工場（静岡・富士宮市）

タンパク質のひとつであるコラーゲンを使用したソーセージの皮「ニッピコラーゲンケーシング」や、可食性の紐「ニッピストリング」を取り扱う。
ケーシングには、100％ウシ由来のコラーゲンを使用。サイズはもちろん、食感に関わる皮の厚みなど、お客様のさまざまなご要望に対応した製品を提供している。
植物性色素を用いたカラーケーシングや、天然素材を使用した印刷ケーシングも取り扱う。ソーセージの皮にイラストをプリントする技術は当社独自のもの。静岡県富士宮市の生産拠点では、富士山の天然水を使用して製造し、世界30か国以上に輸出している。
ストリングは、ケーシングと同じ原料を使用し、もち巾着や昆布巻き、ロールキャベツなどの紐として利用されている。





ニッピ コラーゲン ケーシング



ニッピ ストリング

事業紹介

バイオ・ケミカル事業部

生産拠点　ニッピテクノセンター（東京・足立区）

コラーゲンおよびゼラチンの基礎研究で培った技術を応用したバイオテクノロジー分野から、高分子研究の成果を用いたケミカル分野まで、幅広い機能性素材や高付加価値製品を取り扱う。
バイオ部門では、医療用途向けのコラーゲンやゼラチンをはじめ、ライフサイエンス研究試薬、細胞培養用基材、動物用体外診断用医薬品などを製造販売。コラーゲンを活かしたペット用サプリメントも取り扱う。
ケミカル部門では、当社独自の技術を応用して開発した化学架橋塩化ビニルを主軸に、電線被覆用コンパウンド、マスキングフィルム、床材溶接棒等を取り扱う。



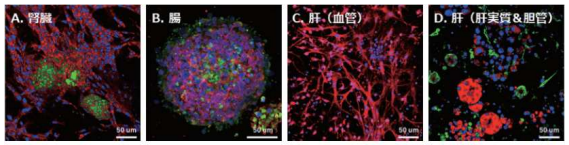


バイオマトリックス研究所

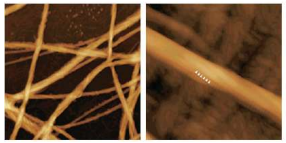
研究開発拠点　バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）

ヒトの身体を構成する細胞のうち、赤血球などを除いた十数兆個の細胞は、細胞同士、あるいは細胞が合成分泌して蓄積する細胞外マトリックスという足場に接着している。その主成分が、コラーゲンというタンパク質である。
コラーゲンは、ヒトの全タンパク質の約30％を占めているといわれ、骨や皮膚、腱などの主成分であるだけでなく、あらゆる臓器に存在し、多様な細胞や組織が正常機能を発揮するための環境を提供するとともに、多くの疾患や成長・老化といった生命現象に密接に関与している。
バイオマトリックス研究所では、生化学や細胞生物学、細胞工学を中心に、ライフサイエンス研究用試薬、医薬品、健康食品、化粧品などの分野において、人々の暮らしと健康に貢献するような研究開発に取り組んでいる。


バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）



三次元培養基材によるオルガノイド形成


コラーゲン再構成線維の原子間力顕微鏡像

事業紹介

化粧品関連事業

コラーゲンメーカーとしての強みを活かし、高品質のコラーゲン製品を展開している。
主力の「コレセンス スキンケアジェル」と「ニッピコラーゲン100」はロングセラー商品。子会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品を通じ、通信販売によりお客様へ提供している。



エヴァライジングシリーズ



エクシードシリーズ



UVケア



コレセンス
エンリッチ ナイトマスク



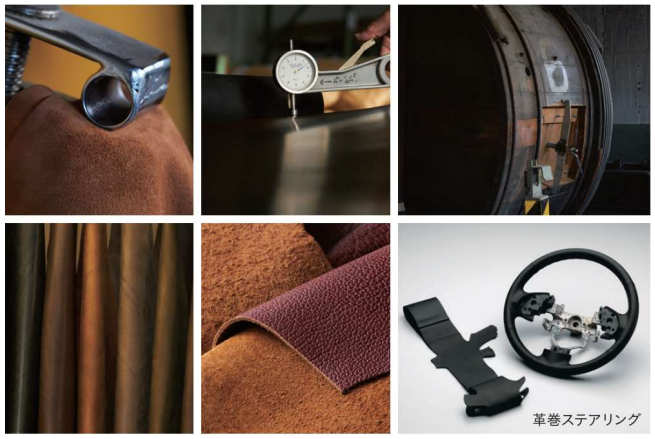
コレセンス
スキンケアジェル



ニッピコラーゲン100

皮革関連事業

創業事業である皮革鞣製造業からは退いたものの、当社が100年にわたり蓄積した皮革製造販売のノウハウは子会社である株式会社ニッピ・フジタが継承。同社は皮革のプロフェッショナル企業として、世界中のタンナリーとユーザーをつないでいる。


革巻ステアリング

賃貸・不動産事業

東京本社所在地である京成線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデTOKYO」の地区開発をはじめ、大阪府大阪市においても賃貸事業および土地開発事業を展開し、当該地区の資産価値向上に取り組む。

みらい千住
ポンテグランデTOKYO
PONTE GRANDE - TOKYO

●昔と未来、●空と緑・花、●川とまち、●風景と建物、
●人と人　の5つの要素を結びます。

本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としています。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されており、将来の結果や業績を保証するものではなく、既知および未知のリスクや不確実性が含まれています。その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予測に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる場合があります。